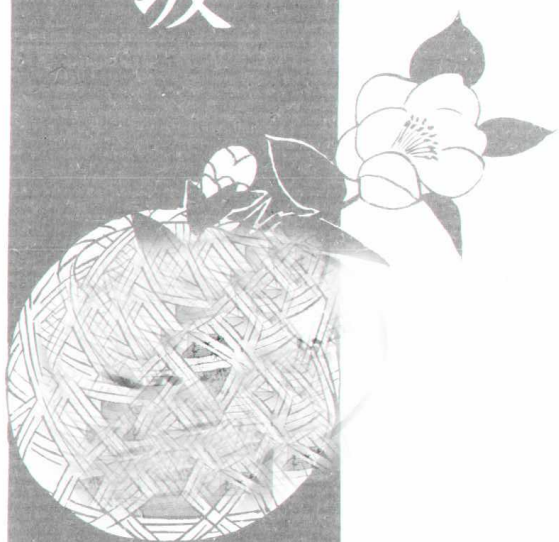


女のいろは坂

田井洋子



女のいろは坂



田井洋子

女のいろは坂

著 者 田井洋子
発行人 児山敬一
編集人 本郷左智夫
発行所 株式会社 学習研究社
〒145 東京都大田区上池台4-40-5
振替 東京8-142930
印刷所 中央精版印刷株式会社
株式会社 美術版画社

この本の内容製本に関するお問い合わせは、下記
記あてをお願いします。

文書は、
〒145 東京都大田区上池台4-40-5
学研・お客さま相談センター
「女のいろは坂」係

電話は、
東京(03)720-1111 (大代表)
☆無断転載，無断複写複製（コピー）を禁ず
©YOHKO TAI 1985 Printed in Japan

169 117 ISBN4-05-101639-0

女のいろは坂・目次

I

女のいろは坂

9

はだか

53

電報

79

八重桜

107

II

おしゃれ——今と昔

135

女の仕事

145

天高く鶴の飛ぶ

159

人生の案内図

163

仲人というもの

171

人づきあい

178

藤の花と父

186

砂丘のチューリップ

197

あとがき

装幀
蓬田やすひろ

女の
いろは
坂

I

女の
いろは
坂

「ワカナちゃん、若菜って名前、若々しくっていいわねえ」

「春に生れたことすぐ分かるし、一度聞いたら忘れないし」

「青菜や、嫁菜や、塩菜じゃ年よりみたいだけど、ワカナちゃんならいつまでたっても年とらないし」

「それにおめでたくって、若菜ちゃんからお年賀状を貰うと本当に正月が来たって感じだもんなア」

どつと笑い合う若々しい声が聞えた。

今年成人式を迎えるひ孫の若菜の友人達が、大勢遊びに来ているらしい。男の子の声も混っている。

今日は一月七日。

七草の祝いと、若菜の誕生日を重ねて、毎年母親の克子が祝宴らしいことをしてやっている。母親といつても自分にとっては孫の嫁で、まだ四十三歳、中学校の体操の教師をしているので、娘とさほど違わないくらい若々しくて、声も大きい。

「ひいおばアチャまと同じ誕生日だから、それにあやかつてね、同じ名前つけたんですよ」

「アラ、それじゃひいおばアチャまも一月七日生まれ？」

「そう。明治二十八年」

ワァーという、感歎とも呆れたともつかぬどよめきが、庭のゆずり葉の古木の、厚味のある茂みを透して離れまで伝わって来た。

此の木も大正の初めに植えたので、もう見上げるばかりの大木である。

毎年暮れになると、近くの植木屋がバサバサと枝を下ろしにくる。つやつやした厚手の小判形の葉を正月の輪飾り用として業者に売るのでそうである。葉は随分沢山あるらしい。序でにはかの庭木も手入れしてくれるから、葉の代金はとらない。

植木屋を一日頼めば、一万か一万五千円はするので、此のゆずり葉の木も中々働き者である。

「若菜ちゃんは、ひいおばあちゃんと、同姓同名なのねえ」

「同じ家で同姓同名じゃ、年賀状どっちに来たか分からないでしょう」

と、誰かが心配している。

「大丈夫、ひいおばあちゃんのは、一枚も来ませんからね」

と、克子が大きな声で言った。

今年も、一枚も来なかった――

若菜は、机の上に積み上げたお年玉つき年賀葉書を眺めて苦笑した。

葉書は暮れに三〇〇枚買っておいて、使うのは三〇枚だから残り二七〇枚。その中からお年玉の当籤番号を探し出すのが楽しみである。一等の電子レンジや、二等のカメラなど当るわけではないが、三等の郵便セットなどはチョイチョイ当って重宝している。四等の切手シートというのが一番多い。当った番号のは残しておいて、あとの年賀葉書はボチボチ使う。シートは四枚一組だから、五組あたれば八〇〇円得をするのだ。

年賀葉書は普通の葉書と同じに使える。若菜は克子にもそうしなさいとすすめるが、克子は恥ずかしくて実行しない。

「夏になって、暑中見舞に年賀葉書なんか使ったら、随分ケチな家だと思われるでしょう？　八〇〇円ぐらいのことで軽蔑されるのは嫌ですもの」

若菜は年内なら別にかまわないではないかと思うのだが、若い者とは感覚が違うのだから相手にされない。

儉約が美德ではなくなっちゃったのだ。

若菜は筆まめで、字を書くのは一向に苦にならない。ひ孫の若菜から月刊の情報誌を借りて来て、封切映画の試写会とか、芝居の宣伝、当選の方はハワイ旅行へご招待などという自動車会社の広告記事を見つけ、年賀葉書の残りを使ってセッセと応募する。

映画の試写会は宣伝が目的だから簡単に当る。

「これ、いただくわ」

気に入った映画の時は克子もニコニコして、

「普通には買えば入場料千五百円なのよ。それを四十円の葉書一枚で見られるのだから、帰りに喫茶店へはいれるし、凄いわ、おばァちゃま」

何が凄いかよく分からないが、克子は派手なワンピースをヒラヒラさせて、いそいそ出かけるのだから勝手なものである。